

時評

## 大学生活のススメ 批評精神と対話が大切

新学期が始まる。県下にも何万人という新入生がいる。まずはおめでとうをいいたい。きみたちの生活は一変しただろう。とくに大学の新入生の中には一人暮らしを始めた人も多いはずだ。そんなきみたちにひとこと。

最近の大学は以前に比べずいぶん教育にも力を入れるようになってきた。それはむしろよいことだが、安心ばかりしてはいられない。大学の授業を聞くことは、何かを知りたいという学ぶ行為の一部に過ぎない。それは、自分の中での知の創造の出発点に過ぎない。先生の話は本当か。それくらいの批判精神を持って授業に臨んでほしい。率直に言って、今の大学生にはその認識が希薄なように思われる。

知るということは、対話するということでもある。他者との対話を通じて、物事への理解は深まる。とくに、意見の違う人との対話は自分を鍛えるに格好のチャンスである。だまって授業を聞き帰ってくる、というだけでは大学に行く意味は半減する。「あの人は違う」と思っても、その人との対話を避けるのは損である。けんかになってもよいから、対話してほしい。相手の心に踏み込みその人生を変えるような、そんな存在であってほしい。

三つ目は、歴史を学んでほしいということ。今世の中は「百年に一度の経済危機」と騒いでいる。しかし人類はアフリカを出てからこの数万年間に厳しい試練を幾度も受けてきた。千年に一度の危機に遭遇した人びとも過去にはいた。彼らはいったいどのようにその危機をしのいできたのか。そこに「百年の危機」を乗り越えるヒントがあるはずだ。危機になると、歴史の研究を「役に立たない」とばかり軽んじる傾向があるが、今こそ歴史を学ぶべきである。

そして最後に、しっかりと食べることを勧めたい。人間の脳は、臓器の中でもっともエネルギーを消費する。授業をちゃんと聞こうと思えば、それなりのエネルギーが要る。朝食を抜いたりダイエットしたりすると、消費するエネルギーがまかなわれず、脳の活動も低下する。最近の大学では朝から居眠りをしている学生をよく見かけるが、それは変なダイエットか、朝食を抜いたことによる飢餓状態から来る睡魔に勝てないからだと思う。医師の勧めがない限りダイエットなどすべきではない。

「ダイエットで飢餓状態になりいつも居眠りをしている」などという生活は送らないでほしい。